

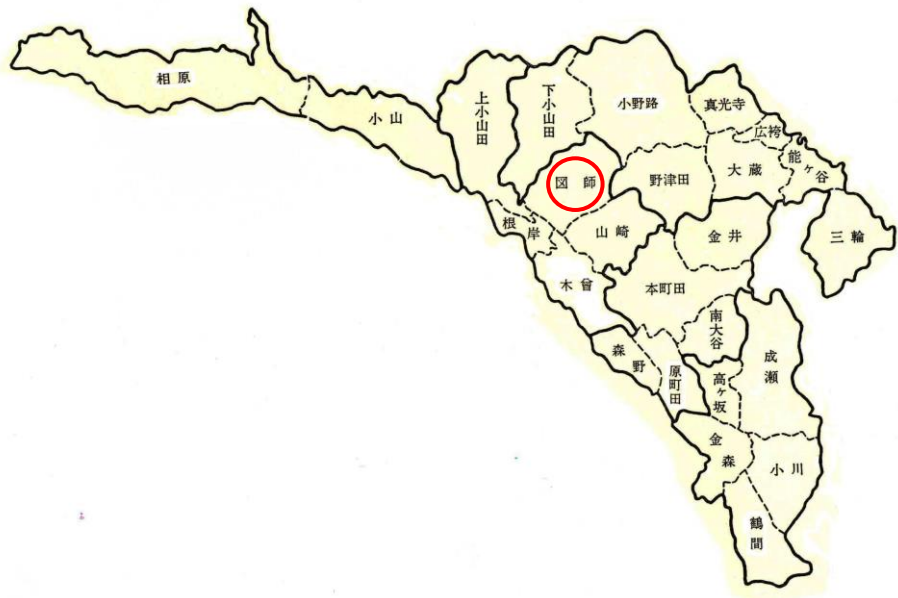
図師村甲ヶ原開発に賛成した上図師・弁四郎とその家族

第Ⅰ回 図師村と上図師の弁四郎

昔の人びとがどのような人生を送ったのか、多くの場合、それを知るには史料的な限界がありますが、限られた史料からその断片を紹介します。今回から4回にわたり、幕末に図師村上図師に住んでいた弁四郎とその家族たちの人生をたどってみます。

◆武蔵国多摩郡図師村について

【図】江戸時代の市域の村むら



江戸時代の武蔵国多摩郡図師村は大きく上・下に分かれており、「武蔵田園簿」（17世紀半ば）によると、村高は上図師・下図師ともに139石余、合計278石余でした。その後、寛文検地や新開場検地が実施され、572石余となりました。

もともと幕府領でしたが、元禄の地方直しによって、旗本の平岡家・田中家の知行所、霊雲寺の神社領となります。三者の支配地域がどのように区分されていたのかは不明ですが、大まかに上図師が平岡家領と霊雲寺領、下図師が田中家領だったようです。

「天保郷帳」（19世紀前半）では、上図師は314石余、下図師は272石余、合計586石余。嘉永3（1850）年11月「家数人別書上之控」（図師町・佐藤家230）によると、図師村の家数は121軒、人口は566人でした【表】。

17世紀後半から19世紀半ばにかけて、図師村

【表】図師村の家数・人口（嘉永3・1850年時）

字名	支配	家数	人口
上図師	平岡家領	42軒	161人
	霊雲寺領	25軒	116人
下図師	田中家領	54軒	289人
合計		121軒	566人

〔出典〕嘉永3年11月「家数人別書上之控」
（図師町・佐藤家文書230）

の村高はほとんど変化なく、市域の村のなかでは中規模の村と言えます。

◆上図師の弁四郎について

弁四郎を知るために最初にあげる史料は、天保15(1844)年5月17日付の上図師の平岡家領内で取り交わされた議定です(図師町・佐藤家文書50)。領内では、従来の年番組頭による村落運営に対し、村びとが不満を訴えます。領主が仲裁に入り、村びとから新たに月番の組頭を選ぶことを決めました。その議定に署名した村びとのなかに弁四郎の名があります。

次は、嘉永2年9月に領主平岡家からの村役人就任通知に対し、村で作成した請書です(図師町・佐藤家文書229)。平岡家領には10名の組頭役がおり、そのうち6名が年番で名主を務め、残り4名が月番で組頭役を務める、というものでした。その月番の組頭役に弁四郎の名があり、村落運営に携わっていた人物だったことがわかります。